











白保青年会歌

一、島の東の朝はらり  
輝く海よ潮鳴りよ  
これを吾等の白保村  
若人の血潮高らかに

二、於茂登岳から吹く風は  
神の息吹きにさも似たり  
森川の急流は  
深るかさながらに

三、緑の牧場色映えて  
無限の宝庫様たのむ  
口出る村の黎明は  
吾等の腕に期して付つ

四、祖先の血潮湧かしたる  
森千瀬の警鐘は  
今こそ起たん若人よ  
世紀の旗を押し立てて

エ五四



# 真謝井戸

真謝井戸の碑

寛延3年(1750)の頃、真謝村は白保から分村した。真謝井戸は当時村民の飲料水用として掘られたが、明和8年(1771)大津波によって埋められてしまった。白保真謝両村も津波のために壊滅したので、八重山の行政庁蔵元では波照間島から強制移住せしめて白保村を再建し、真謝村は廃村となった。

真謝井戸は琉球王命により、視察のため派遣された馬術の名人馬真謝という人が、村人と共に再掘して永く村民の生活に役立てた由緒ある井戸である。

1966年4月23日 老人会建立  
2006年6月 吉日 改築  
撰文 喜舎場永珣・牧野清  
寄贈 ヤマト工業(資)



































































































































































































































































































